

年 2002 まほろん



〔財〕福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター 白河館

報





『開館記念式典』テープカット



『開館記念イベント』土器づくり体験

年報2002の発刊によせて

館長 藤本 強

年報2号をお届けします。平成13年7月15日の開館から平成14年3月末までの「まほろん」の記録です。この間にあったことが走馬灯のように頭の中を駆けめぐります。式の会場をいっぱい飾っていた風船が暑さに耐えかねてポンポンと次々に割れていたまほろんの開館式、イベント広場に人々が溢れさまざまな催しに沸き返っていた開館イベント、その夜の会場をさまざまな歌でわかせた「Yae」と一緒にみんなでうたった「月夜のまほろん」、大勢の人々が訪れ列ができてなかなか観ることができなかつたお盆の常設展示会場、ボランティアさんがさまざまに活躍した秋のオリエンテーリング、グルメ祭り、餅つき、雪に見舞われほとんど見学者がなかつた冬の日などなど、初年度のまほろんにはいろいろなことがありました。

おかげさまで、初年度多くの方々がまほろんを訪れ、さまざまなことを楽しみながら体験してくださいました。色々と用意した体験学習のプログラムについては、ある程度の自信はあったものの、本当に皆さんに楽しんで学んでもらえるだろうかという不安がない訳ではありませんでした。訪ねてくださった多くの方々に喜んでもらえ、かなりの方々が繰り返し通ってくださるようにもなりました。そうしたことで、初年度の9か月弱で3万人以上の来館者を迎えることができました。来館者の皆様の支援の賜物です。有り難うございました。

館員一同、これからも来館者の皆様の要望を入れながら、楽しみながら学べるプログラムを考えていきたいと思っています。自然と昔の人々に学ぶことをより多くの方々に楽しんでいただけるようにしようと考えています。どしどし要望をお寄せいただきたいと思います。多くの方々に親しまれるまほろんにしていきたいと考えています。そしてそれらを年報に記録し、10年後、20年後、あるいは50年後の『まほろん史』の基本資料にします。今後とも多くの方々の支援を心から願います。

目 次

第1章 まほろんの沿革……………1	5. メンテナンス……………20
1 開館までのあゆみ……………1	8 企画展事業……………21
2 開館後のあゆみ……………1	1. 第1回 開館記念特別展 「はにわ一座がやってきた」……………21
第2章 事業の概要……………3	2. 第2回 開館記念特別展 「復元！三角縁神獣鏡」……………23
1 開館記念事業……………3	3. 収蔵資料展 「新編陸奥国風土記卷之一 白河郡」 ……………23
1. 開館記念式典……………3	9 ボランティア運営事業……………25
2. 開館記念イベント……………4	1. 登 録……………25
2 管理運営……………5	2. 活動内容……………25
1. 運営協議会……………5	3. ボランティア受け入れ体制……………26
2. 出版物……………6	4. ボランティアコーディネーターの 設置……………26
3. 研究紀要……………6	5. ボランティア研修……………26
4. まほろん通信……………7	第3章 入館者統計……………27
3 資料管理事業……………8	1 月別入館者数……………27
4 情報発信事業……………10	2 区分別利用状況……………27
1. ホームページによる情報発信……………10	3 団体利用状況……………28
2. 文化財データベース……………10	第4章 まほろんの予算……………29
3. エントランスでの情報提供……………11	1 一般会計……………29
5 研修事業……………12	2 物品販売特別会計……………29
1. 研修事業実施の概要……………12	第5章 まほろんの条例・規則……………30
2. 研修事業実施の考え方……………12	1 条 例……………30
3. 実 績……………12	2 条例施行規則……………31
4. 研修実施状況……………13	第6章 まほろんの組織と職員……………32
5. 今後の課題……………15	1 まほろんの組織……………32
6 体験学習事業……………15	2 職員名簿……………32
1. 常時体験型……………15	第7章 まほろんの施設の概要……………33
2. 募集型……………16	
3. 館外体験学習支援事業……………18	
4. 館長講演会……………18	
5. まほろん文化財講座……………18	
7 常設展事業……………19	
1. 構 成……………19	
2. 展示替え……………19	
3. 資料貸出……………19	
4. 展示資料の損壊等……………19	

第1章 まほろんの沿革

1 開館までのあゆみ

- 平成6年度
福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター(仮称)整備基本構想報告書」を答申
- 平成8年度
「福島県文化財センター白河館(仮称)基本計画」策定
- 平成9年度
基本設計
- 平成10年度
実施設計・用地取得・造成工事
- 平成11年度
造成工事・建築工事
平成11年11月
施設愛称を公募し「まほろん」に決定
平成12年3月
シンボルマーク・ロゴマークの決定
- 平成12年度
建築工事・環境整備工事・野外展示工事・
屋内展示工事
平成12年8月20日
第1回プレイベント『親子で学ぶ縄文時代』開催(場所:白河市文化センター)
平成12年10月1日
第2回プレイベント『みんなで昔の家を作ろう!』開催(場所:白河館体験広場)
平成13年3月27日
福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定
- 平成13年度
屋内展示工事
平成13年4月1日
福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託
平成13年6月10日
第3回プレイベント『まほろん講演会』開催(場所:福島ビューホテル)
「考古学は今何を語るか」藤本強館長

平成13年6月29日
平成13年度第1回運営協議会

2 開館後のあゆみ

平成13年7月15日
福島県文化財センター白河館開館
開館記念式典

平成13年7月15日～9月2日
第1回開館記念特別展「はにわ一座がやってきた。」開催

平成13年8月5日
開館記念イベント「まるごと体験まほろん」開催

平成13年8月17日
入館者10,000人到達

平成13年10月27日～12月2日
第2回開館記念特別展「復元!三角縁神獣鏡」開催

平成14年1月26日
入館者30,000人到達

平成14年2月2日～3月31日
収蔵資料展「新編陸奥国風土記卷之一白河郡」開催

平成14年3月15日
平成13年度第2回運営協議会

平成14年3月17日
第44回福島県考古学会(白河市にて開催)による視察



『まほろん講演会』の藤本強館長



『開館記念式典』くす玉割り



『開館記念イベント』の体験ブース

第2章 事業の概要

1 開館記念事業

1. 開館記念式典

開館記念式典は、福島県教育庁文化課、財団法人文化振興事業団及び白河市教育委員会の全面的な協力の下、当館が株式会社ライトエージェンシーと委託契約して行いました。まず、6月18日に第1回打合せを行い、その後、数度の打合せの結果、次のような行事概要となりました。

(1) 準備

① 駐車場

ア 知事等の式典関係者	
職員駐車場	20台
イ 来賓の方	
臨時駐車場	40台
ウ 一般来館者	
一般駐車場	100台
企業局用地	200台
エ スタッフ	
情報センター側	100台

② トイレ

福島県文化財センター白河館内のトイレの他に10棟レンタルした。

(2) 平成13年7月15日当日

① 来賓対応

ア 福島県知事等（高城俊春福島県教育委員会教育長、齋藤幸夫同教育次長、小平良男文化課長、杉原陸夫財団法人福島県文化振興事業団副理事長、藤本強同副理事長、遠藤剛同常務理事、鈴木忠夫白河市教育委員会教育長）

イ 一般来賓（今泉幸一文化課主幹はじめ文化課職員、事業団職員、白河市教育委員会ら職員9名）

② 式典全般対応

ウ 総括指揮（滝田勝久文化課主幹兼課長補佐、今泉忠廣文化財センター白河館副館長）

エ 組織（報道対応、進行管理・連絡調整、会場整理・誘導、車両誘導、グッズ販売、お茶接待、受付、児童生徒誘導・対応の8班約60人）

③ 天候 晴天

④ 式典スケジュール

ア 開会のことば

齋藤幸夫福島県教育委員会次長

イ 式 辞

高城俊春福島県教育委員会教育長

ウ あいさつ

佐藤栄佐久福島県知事

エ 施設紹介

藤本強当館館長

オ 来賓の祝辞

植田英一福島県県議会議長

今井忠光白河市長

※ その他の来賓 衆議院議員、参議院議員、白河市議会副議長、国立那須甲子少年自然の家所長等150人

カ 閉会のことば

齋藤幸夫福島県教育委員会次長

⑤ テープカット並びにくす玉割り

ア テープカット参加者

佐藤福島県知事、植田福島県議会議長、今井白河市長、樽川福島県教育委員会委員長、城福島県教育委員会教育長、当館館長

イ くす玉割り

白河第一小学校、白河中央中学校、西郷養護学校、白河旭高等学校の児童生徒たち8人

ウ 演 出

白河第二中学校吹奏楽部のみなさんが演奏するファンファーレ並びに『♪明日があるさ』

⑥ まほろん入館

福島県知事につづいて来賓、一般来館者が福島県文化財センター白河館へ入っ

ていきます。

※ 一般の入館者第1号

鈴木信正さん

7月15日の一般入館者

703人

同来賓

150人

⑦ 展示解説会

藤本強当館館長による常設展示、特別展示の詳細な解説をしながら、各展示室を案内する

開始 午後1時30分

対象者 白河第一小学校、西郷養護学校、白河旭高等学校の児童生徒をはじめとした一般来館者



『開館記念式典』展示解説会

2. 開館記念イベント

開館記念イベントは、福島県教育庁文化課、財団法人文化振興事業団及び白河市教育委員会の全面的な協力の下、当館が株式会社オリエンタル・エージェンシーと委託契約して行いました。まず、7月3日に第1回打合せを行い、その後、数度の打合せの結果、次のようなスケジュールとなりました。

(1) 業務の目的

平成13年7月15日に開館した福島県文化財センター白河館（愛称：まほろん）の開館を周知する広報活動として開館記念イベントを実施する。

(2) 業務の内容

① 日時 平成13年8月5日(日)

午前10時から午後7時30分まで

② 開催場所 福島県文化財センター白河館体験広場

③ 日程

開会式 10:00

体験学習フェスティバル 10:20～

まほろんファイヤー 17:30～

まほろんミニコンサート 18:30～

④ 内容

ア 開会式

館長あいさつ

テープカット(石斧、麻縄を使用)

縄文時代の弓矢の遠射

イ 体験学習フェスティバル

a 7つのブース

- ・火おこし

講師：関根秀樹他2名

- ・土器づくり体験

講師：加曾利貝塚土器作り同好会のみなさん

- ・石器づくり体験

講師：小菅将夫



『開館記念イベント』の石器づくり体験

- ・縄文食体験

講師：平出美穂子他3名

- ・釣針づくり体験

講師：楠本政助

- ・縄文編物体験

講師：尾関清子

- ・縄文の髪型復元体験

講師：渡部久子、関根秀樹

- b ステージ
 (火おこしライブ、土器づくりライブ、石器づくりライブ、鹿の角で釣針を作ろう、縄文編みライブ、むかしの楽器を作ろう、復元“縄文美人”)
- ウ まほろんファイヤー
- a 7つの時代の火おこし方法で火をおこし、かがり火台に点火
- b 時代衣装を着た地元小学生の中から6組の親子と福島県知事がステージで、7つの火を松明に取り、「まほろんファイヤー」(聖火台)に点火する。
- c スタッフが、会場内の「ぼんぼりキャンドル」に点火
- ※ 7つの火
- | | |
|---------|------|
| 旧石器時代 | 弓ぎり |
| 縄文時代 | ひもぎり |
| 弥生時代 | もみぎり |
| 古墳時代 | 舞ぎり |
| 奈良・平安時代 | 火打ち石 |
| 中近世 | 鍛鉄式 |
| 近現代 | 薬品 |
- エ まほろんミニコンサート
- a 会場 ステージ上
- b 内容
- ・白河第五小学校児童による「ろんろんまほろん」の合唱
 - ・記念品贈呈
 (福島県知事から白河第五小学校児童)



『まほろんファイヤー』点火

- ・歌手 Yae によるミニコンサート
 (「月夜のまほろん」他6曲)

※ 「ろんろんまほろん」と「月夜のまほろん」は福島県文化財センター白河館オリジナルチャイムの原曲であり、Fleur Bleue が作詞作曲したものです。

(3) 結果

来館者 1,500人

2 管理運営

1. 運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験者から6名を委嘱している。

名簿

- | | |
|------|----------------------------------|
| 岡田茂弘 | 東北歴史博物館館長 (会長) |
| 渡邊一雄 | 福島県考古学会会長 (副会長) |
| 遠藤 毅 | 西白河小中学校長連合協議会会長
白河市立白河中央中学校長 |
| 金子誠三 | 白河市文化財保護審議会会長 |
| 本木光史 | 独立行政法人国立少年自然の家
国立那須甲子少年自然の家所長 |
| 山崎京美 | いわき短期大学助教授 |

会議

平成13年度第1回運営協議会

日時 平成13年6月29日(金)

場所 福島県文化財センター白河館会議室

運営協議会委員委嘱状交付

運営協議会会長及び副会長選出

議事

福島県文化財センター白河館の施設概要について

年間事業計画について

平成13年度第2回運営協議会

日時 平成14年3月15日(金)

場所 福島県文化財センター白河館会議室

議事

福島県文化財センター白河館の運営状

況について

平成14年度年間事業計画について

2. 出版物

福島県文化財センター白河館年報2001

「まほろん誕生」(平成13年度開館準備までの実績)

福島県文化財センター白河館研究紀要2001

まほろん通信 (VOL. 1 ~VOL. 3)



『第1回運営協議会』屋外展示視察

3. 研究紀要

平成13年度末に1冊目の研究紀要として「福島県文化財センター白河館研究紀要2001」を発行した。原稿と執筆者は以下である。

- 福島県内出土古墳時代金工遺物の研究
 - 一 策内古墳群出土馬具・武具・装身具等、真野古墳群A地区20号墳出土金銅製双魚佩の研究復元製作
- 第1部 復元研究の目指すもの
- 〔1〕復元の企画(森 幸彦)
 - 〔2〕古代遺物復元研究の未来とその手法(鈴木 勉)
 - 〔3〕復元研究対象遺物の選定と研究課題(鈴木 勉)
 - 〔4〕ものづくりの立場から見た復元研究の体制について(押元信幸)
 - 〔5〕策内古墳群出土遺物の自然科学的調査(菅井裕子・渡辺智恵美・平尾良光・榎本淳子・早川泰弘)
- 第2部 復元研究の経過
- 馬具の復元
- 〔6〕策内37号横穴墓出土馬具から復元される馬装について・(桃崎祐輔)
 - 〔7〕古墳時代金属装木製鞍の復元(古谷 毅)
 - 〔8〕策内37号横穴墓出土雲珠・辻金具の鍛造技術について(山田 琢)
 - 〔9〕策内37号横穴墓出土杏葉と鏡板について(鏡の製作と組立)(山田 琢)
 - 〔10〕策内37号横穴墓出土鉄製轡の復元製作(山田 琢)
 - 〔11〕策内37号横穴墓出土飾帯金具の復元について(伊藤智恵)

- 〔12〕策内37号横穴墓出土杏葉・鏡板の吊金具の復元製作(伊藤智恵)
- 〔13〕策内37号横穴墓出土締金具の帯金具と帯先金具の復元製作(伊藤智恵)
- 〔14〕策内37号棟穴墓出土馬具の鉄地金銅張りの復元工程(依田香桃美)
 - 【策内37号横穴墓出土馬具金具類・製作工程企画表】(依田香桃美)
- 〔15〕策内37号横穴墓出土鞍・締金具の復元について(高橋正樹)
- 〔16〕策内37号横穴墓 木製鞍・鐙の想定復元製作(小西一郎・鈴木 勉)
- 〔17〕出土しない敷物、紐、革製品を復元する(押元信幸)
- 〔18〕策内37号横穴墓出土馬具/復元馬具の調整・組立について(押元信幸)
- 〔19〕策内37号横穴墓出土馬具の調整・組立について(山田 琢)
 - 大刀の復元
- 〔20〕策内6号・26号横穴墓出土大刀の構造と復元案(菊地芳朗)
- 〔21〕策内6号横穴墓出土大刀の鉄地銀被せの技術について(押元信幸)
- 〔22〕策内26号横穴墓出土大刀の復元経過について(押元信幸)
- 〔23〕策内6号横穴墓出土大刀鞘と柄の製作(小西一郎)
- 〔24〕策内6号横穴墓出土大刀の柄の紐巻きについて(五味 聖)
 - 刀子の復元
- 〔25〕策内21号横穴墓出土刀子と装具の復元について(清喜裕二)
- 〔26〕策内21号横穴墓出土刀子の鞘・柄の製作工聴(五味 聖)
 - 矢の復元
- 〔27〕策内6号横穴墓出土矢の復元について(清喜裕二)
- 〔28〕策内6号横穴墓出土鉄鏃と矢の製作技術(山田 琢)
 - 耳環の復元
- 〔29〕策内古墳群出土銅芯銀箔張り鍍金耳環復元製作実験(高橋正樹)
 - 銅鏡の復元
- 〔30〕策内37号横穴墓出土銅鏡の復元について(押元信幸) 262
- 〔31〕策内37号横穴墓出土銅鏡の鑄造復元工程(長谷川克義)
 - 金銅製双魚佩の復元
- 〔32〕真野古墳群A地区20号墳出土金銅製双魚佩(甲)の復元製作(松林正徳)
- 〔33〕真野古墳群A地区20号墳出土金銅製双魚佩(乙)の復元製作(黒川 浩 鈴木 勉)

[34] 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩のワッシャーと目玉を復元する (依田香桃美)

[35] 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩の鉾と組立について (山田 琢)

第3部 復元研究から何が見えるか

[36] 鉄地金銅張り技術の復元作業から見えること (依田香桃美)

[37] 古代の分業と復元研究過程の分業について (押元信幸)

[38] 復元研究プロジェクトチームの運営について (鈴木 勉)

[39] 復元研究を終えて (押元信幸)

[40] まほろんの復元展示 (鈴木 勉)

[41] あとがき (森 幸彦)

- 一里段 A 遺跡の工事中立会に係る記録報告 (今野徹・伊藤典子)
- 法正尻遺跡65号住居跡の縄文土器 (松本 茂)
- 文化財データベースについて - その1 基本構造と遺跡データベースについて - (藤谷 誠)

4. まほろん通信

当館の広報誌として「まほろん通信」を平成13年度は3回発行した。発行日は、7月15日、10月15日、1月15日で、3ヶ月に1回の発行となっている。

発行部数は4000部で、館内の利用者に無料で提供する他、県内の教育委員会・小中学校、全国の埋蔵文化財センター・主要博物館等に送付している。

各号の内容は以下のとおりである。

a 「まほろん通信 VOL. 1」

- 館長あいさつ
- 常設展紹介
- 開館記念特別展案内
- 特別記念講演会案内
- シリーズ復元展示 (三角縁神獣鏡の復元 その1)
- 体験学習 (体験メニュー紹介)
- 研修課より (文化財研修案内)
- 総務管理課より (収蔵庫紹介)
- まほろんからのお知らせ (利用案内・館長講演会案内)

b 「まほろん通信 VOL. 2」

- 開館記念イベント紹介
- 体験学習 (発掘体験ツアー・体験活動室

の紹介)

- 第2回特別記念展「復元！三角縁神獣鏡」案内
 - 特別記念講演会案内
 - シリーズ復元展示 (三角縁神獣鏡の復元 その2)
 - 研修課より (教職員発掘調査研修の紹介)
 - 総務管理課より (収蔵資料利用案内・入館者10,000人達成)
 - まほろんからのお知らせ (利用案内・ボランティア募集)
- c 「まほろん通信 VOL. 3」
- 開館記念イベント紹介
 - 体験学習 (まほろん探検隊・餅つき大会紹介)
 - 館長講演会紹介
 - 第3回企画展「新編陸奥国風土記卷之一 白河郡」案内
 - シリーズ復元展示 (三角縁神獣鏡の復元 その3)
 - 研修課より (教職員発掘調査研修の紹介)
 - 総務管理課より (収蔵資料利用案内・入館者10,000人達成)
 - まほろんからのお知らせ (利用案内・ボランティア募集)



『まほろん通信 VOL. 1』

3 資料管理事業

(1) 収蔵資料数一覧

(箱)

	遺物	写真	図面	地図・カード類	合計
一般収蔵庫	35,047	2,253	759	489	38,548
特別収蔵庫	354				354
合計	35,401	2,253	759	489	38,902

* 1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

* 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

(2) 資料貸し出し

遺物

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
10月31日	青森県郷土館	特別展「火炎土器と翡翠の大珠」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	4
			天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
			石川町七郎内C遺跡出土大珠	1
			合計	8

写真

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
7月24日	歴史春秋出版株式会社	歴春ふくしま文庫「律令国家と福島」掲載	野外展示「奈良時代の倉庫」	1
			野外展示「製鉄炉」	1
			白河軍団兵士(復元)	1
			製鉄炉出土羽口	1
9月1日	国士舘大学考古学会 研究集会	研究集会資料	原町市長瀨遺跡製鉄炉	14
			原町市大船迫A遺跡製鉄炉	11
			原町市鳥打沢A遺跡木炭窯	2
			鹿島町南入A遺跡製鉄炉	6
10月19日	株式会社 青潭社	「週刊ビジュアル日本の歴史95号」掲載	野外展示「奈良時代の家」	1
10月19日	青森県郷土館	特別展図録「火炎土器と翡翠の大珠」掲載	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	4
			天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
			石川町七郎内C遺跡出土大珠	1
10月29日	株式会社 創英	ココロミュージアムレポート「テオリア10号」掲載	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
			磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	1
			会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器	1
11月2日	株式会社 創英	ココロミュージアムレポート「テオリア10号」掲載	まほろん全景	1
			三角縁神獣鏡の複製品	1
11月2日	東京法令出版株式会社	副教材「わたしたちの郷土福島のあゆみ」掲載	野外展示「縄文時代の家」「複式炉」	2
11月8日	株式会社 至文堂	日本の美術429号「発掘された庭園」掲載	三春町柴原A遺跡2号敷石住居跡	1
12月5日	東北歴史博物館	特別展図録「東北発掘ものがたり」掲載	岡山県備前市鶴山丸山古墳出土三角縁神獣鏡の複製品	1
12月6日	株式会社 青潭社	「週刊ビジュアル日本の歴史102号」掲載	東村谷地前C遺跡出土土石器	1
12月28日	株式会社 山と溪谷社	「縄文人になろう!」掲載	鹿角のモリ(復元)	1
			縄文時代の髪型の復元写真	1
			縄文時代の漆器(復元)	1
1月18日	郡山市視聴覚センター	学校教材資料	三春町柴原A遺跡出土土偶	1
			郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
2月8日	株式会社 吉川弘文館	街道の日本史12「会津諸街道と奥州道中」掲載	西会津町塩喰岩陰遺跡全景	1
			泉崎村関和久遺跡全景	1
2月14日	棚倉町教育委員会	社会科副読本「わたしたち町たなぐら」掲載	常設展示「暮らしのうつりかわり」	7
2月19日	株式会社 飛鳥企画	通信教育用テキスト「保存科学概論」掲載	矢吹町弘法山古墳群出土玉類	3
3月4日	福島市教育委員会	宮畑遺跡副読本掲載	まほろん施設外観	1
			まほろん施設内部	1
			まほろん体験活動	1
3月8日	白河市教育委員会	「広報白河4月号」掲載	白河市一里段A遺跡出土石器	1
4月2日	株式会社 小学館	「考古資料大観12巻」掲載	会津若松市一ノ堰B遺跡出土管玉	1
			鹿島町南入A遺跡出土石器	3
			会津坂下町能登遺跡出土弥生土器	12
			合計	93

その他

(点)

日付	貸出先	貸出目的	資料名	数量
3月19日	横浜市歴史博物館	企画展「東へ西へ—律令国家を支えた古代東国の人々—」	多賀城に向かう白河軍団兵士(復元)	1
			合計	1

(3) 資料閲覧

遺物

(点)

件数	遺跡名	市町村名	資料名	数量	
1	獅子内遺跡	福島市	縄文土器	117	
	道上遺跡	会津高田町	縄文土器	288	
	上ノ台A遺跡	飯館村	縄文土器	112	
	宮内B遺跡	飯館村	縄文土器	57	
	上ノ台D遺跡	飯館村	縄文土器	5	
	田町遺跡	矢吹町	縄文土器	280	
	荒小路遺跡	郡山市	縄文土器	1,416	
	王子前遺跡	須賀川市	縄文土器	401	
	中平遺跡	浪江町	縄文土器	433	
	柴原A遺跡	三春町	縄文土器	435	
越田和遺跡	三春町	縄文土器	2,218		
2	柴原A遺跡	三春町	縄文土器・土偶	7	
3	法正尻遺跡	磐梯町・猪苗代町	縄文土器	789	
	天光遺跡	磐梯町	縄文土器	351	
	下悪戸遺跡	石川町	墨書土器	19	
	赤根久保遺跡	東村	墨書土器	39	
	佐平林遺跡 (I～IV区)	東村	墨書土器	14	
	佐平林遺跡 (VI区)	東村	墨書土器	26	
	板倉前B遺跡	東村	墨書土器	3	
達中久保遺跡	石川町	墨書土器	31		
4	船ヶ森西遺跡	会津若松市	土師器・須恵器	239	
	上吉田遺跡	会津若松市	土師器・須恵器	936	
	屋敷遺跡	会津若松市	土師器・須恵器	60	
	能登遺跡	会津坂下町	土師器・須恵器	35	
5	岩下A遺跡	飯館村	石棒	25	
	稲荷塚B	飯館村	石棒	17	
	日向南	飯館村	石棒	10	
6	南入A・長瀬遺跡	鹿島町・原町市	石器	125	
	美シ森B遺跡	楯葉町	石器	94	
	孫六橋遺跡	福島市	石器	76	
	武井A遺跡	新地町	石器	12	
	武井B遺跡	新地町	石器	8	
	武井D遺跡	新地町	石器	9	
7	一斗内遺跡	須賀川市	縄文土器・弥生土器	956	
	岩下B遺跡	飯館村	縄文土器	8	
	宮内B遺跡	飯館村	縄文土器	4	
	鬼渡A遺跡	会津坂下町	縄文土器・弥生土器	305	
8	孫六橋遺跡	福島市	弥生土器	82	
	岩下A遺跡	飯館村	弥生土器・石器	670	
	一ノ堰B遺跡	会津若松市	弥生土器	266	
	市能登遺跡	会津坂下町	弥生土器・石器・土製品	543	
	和泉遺跡	北会津村	弥生土器	180	
9	獅子内遺跡	福島市	縄文土器	106	
10	山田B遺跡	相馬市	縄文土器	16	
	松ヶ平A遺跡	飯館村	縄文土器	2	
	羽白C遺跡	飯館村	縄文土器	13	
	羽白D遺跡	飯館村	縄文土器	22	
	上田郷VI遺跡	広野町	縄文土器	10	
	タタラ山遺跡	いわき市	縄文土器	56	
	塩喰岩陰遺跡	西会津町	縄文土器	16	
	前原A遺跡	天栄村	縄文土器	12	
	11	法正尻遺跡	磐梯町・猪苗代町	縄文土器・土製品	174
		桑名邸遺跡	天栄村	土偶・土製品	53
角間遺跡		磐梯町	土偶	5	
一斗内遺跡		須賀川市	土偶	27	
12	山口E遺跡	都路村	弥生土器	62	
	市土取場B遺跡	須賀川市	弥生土器	50	
13	鳥打沢A遺跡	原町市	須恵器	55	
	善光寺遺跡	新地町	須恵器・瓦	547	
	高田遺跡	新地町	須恵器	19	
14	上ノ台D遺跡	飯館村	縄文土器	3	
	越田和遺跡	三春町	縄文土器	75	
	獅子内遺跡	福島市	縄文土器	97	
	八方塚A遺跡	福島市	縄文土器	7	
	田町遺跡	矢吹町	縄文土器	311	
15	上田郷VI遺跡	広野町	縄文土器・土偶・土製品	374	
16	関和久遺跡	泉崎村	墨書土器	15	
17	正直A遺跡	郡山市	土師器	138	
	佐平林遺跡	東村	土師器	40	
18	上吉田遺跡	会津若松市	墨書土器	459	
	佐平林遺跡	東村	墨書土器	85	
	達中久保遺跡	石川町	墨書土器	47	
	赤根久保遺跡	東村	墨書土器	17	
19	三貫地遺跡	新地町	石器	32	
延べ75遺跡			合計	14,650	

その他

(点)

No.	遺跡名	市町村名	資料名	数量
1	大猿田遺跡	いわき市	木簡(復元)	4
2	会津大塚山古墳	会津若松市	三角縁神獣鏡(復元)	1
			合計	5

4 情報発信事業

1. ホームページによる情報発信

a ホームページの正式開設

平成13年4～7月中に初期コンテンツの制作を担当が行い、7月14日の開館前日に情報をアップしてホームページの正式開設とした。初期ホームページのコンテンツは施設・展示案内の他に、独自のものとして文化財データベースをアップした。

また、Yahoo等の主要検索エンジンへの登録も8月までに終了した。

b コンテンツの追加

HPを運用していく中で、初期コンテンツ以外に「申し込み用紙等のダウンロード」ページやエントランスのGISを利用した「探してみようふくしまの文化財」コーナーの内容の一部を利用した「ふくしまの文化財をみる」等のコーナーを拡充していった。

c アクセス数の推移

月	月間アクセス数	累計アクセス数
7, 8月	2,340	2,340
9月	1,968	4,308
10月	1,747	6,055
11月	1,951	8,006
12月	1,330	9,336
1月	1,722	11,058
2月	1,717	12,775
3月	1,971	14,746

ホームページアクセス数の推移

また、正式開設以降、平成14年3月末までのアクセス数を上の表に記載した。平成13年度は、1,700～1,900件位の月間アクセス件数があった。アクセス月ごとにみると12月が最も少ないアクセス数となっている。

d 情報発信の手続き

情報発信の手続きに関しては、所在地情報や行事案内等白河館独自のコンテンツについては、担当が原案作成後、白河館内で館長までの決裁を受けてから、情報をアップしている。

また、それ以外の「ふくしまの文化財をみる」等の情報発信を公開するにあたっては、所轄担当課である福島県教育庁文化課と協議を行い、その後、白河館内での手続きを行うこととしている。

e コンテンツの作成とアップロード

白河館のホームページに関しては、「文化財データベース」のCGIプログラムが必要な部分については、外部業者に委託している。それ以外のコンテンツについては、情報発信担当職員1名が作成している。

データのアップロードは、ネットワークにつながったクライアントマシンから、FTPソフトを利用して行っている。

また、情報発信に利用しているWWWサーバーには、サンマイクロシステムズのUNIXマシンを利用しており、平成13年度にコンピュータウィルス等によるトラブルに見舞われることはなかった。

f メンテナンス

ホームページコンテンツのメンテナンスとして、DATを利用したサーバーデータのバックアップを1週間ごと（金曜日夜間）に行っている。

WWWサーバー自体のメンテナンスは、リモートメンテナンスとして、外部業者に委託しているが、前述のようにトラブルは全くなかった。

2. 文化財データベース

a 初期データベースのコンテンツ

ホームページ開設と同時に公開したデータベースは、「遺跡データベース」、「遺物データベース」、「写真データベース」の3つである。

「遺跡データベース」は、福島県内の遺跡地図を元にしたデータで、初期段階には、約13,000件のデータが入っていた。

「遺物データベース」は、福島県教育委員会によって（含む業務委託）行われた発掘調査の報告書に掲載されている遺物のデータで、初期段階には、約200,000件のデータが入って

いた。

「写真データベース」は、「遺物データベース」と同様な発掘調査報告書で公表されている遺跡関係の写真をデータベース化したもので、初期段階には、37,000件のデータが入っていた。

b アクセス数の推移

	7月	8月	9月	10月	11月
遺跡	1,822	1,665	1,272	921	745
遺物	468	457	325	274	330
写真	577	1,124	555	299	417
合計	2,867	3,246	2,152	1,494	1,492
	12月	1月	2月	3月	
遺跡	327	470	476	498	
遺物	235	229	208	175	
写真	222	211	300	170	
合計	868	910	984	843	

データベースアクセス数の推移

7月以降3月までのアクセス件数を上の表に示した。7、8月については、ホームページコンテンツ制作に文化財データベースを利用したため、内部からのアクセス件数も含まれている。

アクセス件数は、11月までが1,000件以上となっているが、12月以降は800~900件程度となっている。ホームページのアクセス件数と比較するとだいたい半分の数字となっており、ホームページに2回アクセスするごとに1回のデータベース検索が行われた計算となる。

c データ入力と修正

文化財データベースの入力は、入力元資料の関係から(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部で実施している。

白河館では、データ入力システムを利用したデータベース本体へのデータ入力時にデータの修正を行っている。入力システムでは、データベースの制約をチェックする機能があり、入力と修正を同時に行うことができる。

また、1月から3月まで、完形品の土器を対象とした遺物関係の写真撮影も白河館で実施した。撮影には一眼レフタイプのデジタルカメラ NikonD 1 を利用した。

d データ出力システムの開発

平成13年度の予算で、文化財データベースの一連のシステムとして「データ出力システム」の開発を外部に委託した。

文化財データベースの出力については定型的なものしか出力することができなかったため、一度入力した入力項目の修正を行うには不便があり、新たにSQL文レベルで直接データの出力が可能な出力システムを新たに開発を委託した。

e メンテナンス

データベースサーバーとして、サンマイクロシステムズのUNIXマシンを利用しており、データについては、WWWサーバーと同様に週1回(金曜日夜間)、DATによるバックアップを実施している。

3. エントランスでの情報提供

エントランスホールには2台のディスプレイパソコンが設置されており、ネットワークを利用して文化財データベースを含めた白河館のホームページが閲覧可能である。

開館当初は、ネットワークの出口をインターネット全体として、Yahooをはじめ外のホームページの閲覧も可能としていた。しかし、これらのパソコンを利用する中で、本来の文化財情報の提供目的を逸脱した閲覧・利用を行うケースも出てきた。

そのため、対策を講じる必要が生じ、ネットワーク設定情報の一部を改め、外部のページは全て閲覧不可能とした。



エントランスのPC

5 研修事業

1. 研修事業実施の概要

当館の業務には『文化財に関する研修』が盛り込まれている。これに従い、開館年度である平成13年度は、7月15日の開館日以降、入門研修6回、基礎研修5回、専門研修4回、特別研修1回を開催した。このほかに、受講者の研修希望に対応した随時館内研修を12回、派遣要請研修を2回実施している。平成13年度に研修を実施した日数は延べ95日、研修の参加者は121人である。

2. 研修事業実施の考え方

研修実施一覧に示したのが、平成13年度に実施した、文化財研修の項目である。全国でも県レベルで文化財に関わる研修を実施している例が少なく、研修の内容やその実施・運営方法等については、手探りの部分が多かった。基本的には研修を実施しながら、実際に起きてくる種々の問題点について、その都度改善・対応していくこととした。

平成13年度の研修実施にあたっては、①文化財保護に必要とされる技術の習得を目的とした研修を主とする。②①に関して、文化財保護の経験が少ない者を主たる対象者とし、それに沿った科目を設定する。③研修課職員を主たる講師とする。④外部講師を招き、文化財保護に資するため、最新の知識の修得を目的とした研修も開催する。⑤学校教育に文化財を活用するため、教員を対象とした研修も開催する。⑥現在想定していないニーズの調査をかね、受講者の希望に添って実施する特別研修の随時館内研修と派遣要請研修も適宜実施する、との方針で臨んだ。

3. 実績

平成13年度に実施した研修参加者の職業別の内訳（随時館内研修・派遣要請研修・講演会を除く）は、市町村等で文化財の保護に携わっている職員等と教職員がそれぞれ44%、博物館等で社会教育に携わる学芸員が4%、その他学生が2%、文化財関係の市民ボランティア等が6%であった。教職員については、教職員を対象とした特別研修への参加だけでなく、専門的な研修に参加した方も1/4ほどあり、教職員が文化財に高い関心を持っていることが窺われる。随時館内研修・派遣要請研修・講演会を除いた、定員に対する参加者の比率は47%である。

受講生のアンケートからは、研修の内容について概ね好評を得たことが窺われる。研修の中には受講生が少ないものもあったが、これも受講者から「丁寧にいろいろなことを教えてもらうことができた」、「受講生の経験等を加味して個別に対応してくれた」等々、良い反応に結びついている。また、遺跡の調査を行う研修では、共催をお願いした各教育委員会等の協力もあり、普段接する機会の少ない貝塚や古墳、中世の町屋等を会場とすることができ、これも受講者には好評であった。講義形式の研修では、あの先生の話を書く事ができて良かったとの反応が多かった。一方で、「専門的で難しかった」との反応もあるが、当館の研修の主たるコンセプトが専門家の要請にあることを考えると、これはマイナスの評価ではなく、研修が専門性に立脚したものであったことを示すものと理解している。配付した資料には、専門用語が多すぎる、具体例をもっと示してほしい等、多くの

—コラム—

まほろん植物誌（1）

ミズキ(水木) まほろんの体験広場には背の高い木が数本あります。これがミズキです。春先に枝を切ると樹液がしたたると出ることからこの名がついています。まほろんの園庭にある樹木の中には、まほろんを建てる前からこの土地に自生していたものがたくさんあります。ミズキもその1つです。5月から6月にかけて、白い小さな花をたくさん咲かせます。



要望が寄せられている。

4. 研修実施状況

ここでは、平成13年度に実施した研修事業について、その具体例のいくつかを紹介する。

(1) 入門研修（土坑調査研修）

調査・整理経験が乏しい方を対象として、土坑の調査を通じて、遺構の検出から掘り込み、各段階での観察のポイントと記録の作成の仕方等、遺構の調査を一連の作業手順として理解・習得する事を目的として実施した。

研修は、(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部が調査を実施している、塩川町荒屋敷遺跡で開催し、研修期間は8月21～24日の4日間である。受講者は9名で、その内訳は整理員等も含めて市町村で文化財を担当する職員が6名、教職員3名であった。

研修参加者からは、「もう少し長い研修でも

良かった」、「土坑の調査と記録の基本を再確認することができた」、「掘っていくのは単純で、記録していくことが大変で、遺跡を研究していくことは大切な事」などの声が寄せられた。なお、土坑調査研修についてはこのほかに、郡山市荒井猫田遺跡でも開催した。

(2) 基礎研修(石器の観察と実測方法の研修)

調査・整理経験者を対象として、遺跡の調査では必ずと言っていいほど接する石器について、剥離痕の観察等の観察から、その作り方を理解するとともに、実測図にその成果を表現することを目的として実施した。

福島県立博物館専門学芸員藤原妃敏氏に講師をお願いし、研修期間は11月27～30日の4日間とした。受講者は6名で、整理員等も含めてすべて市町村で文化財を担当している職員である。



土坑の断面図をとる受講者



藤原先生による石器観察の講義

区分	研修名	内容	期間	場所
入門	第1回土坑調査研修	土坑の調査記録方法の研修	8月21日～24日	塩川町
入門	測量研修	測量機器を正しく使うための研修	9月11日～14日	白河館
入門	文化財事務研修	文化財事務を円滑に行うための研修	10月10日～12日	白河館
入門	第2回土坑調査研修	土坑の調査記録方法の研修	11月6日～9日	郡山市
入門	土器実測研修	土師器・須恵器の観察と実測方法の研修	1月22日～25日	白河館
入門	遺跡表面調査研修	表面調査の方法と記録の研修	2月5日～8日	白河市
基礎	試掘調査研修	試掘調査と遺跡範囲の決定の方法を学ぶ研修	9月4日～7日	小高町
基礎	竪穴住居跡調査研修	竪穴住居跡の調査・記録方法の研修	10月2日～12日	矢祭町
基礎	石器の観察と実測方法の研修	石器の観察と実測方法の研修	11月27日～30日	白河館
基礎	保存処理研修	金属・有機質遺物の保存処理の研修	1月29日～2月1日	白河館
基礎	報告書作成研修	見やすく分かりやすい調査報告書を作るための研修	2月19日～22日	白河館
専門	第1回特殊遺構調査研修	特殊遺構の調査・記録方法の研修	9月18日～21日	白河市
専門	第2回特殊遺構調査研修	特殊遺構の調査・記録方法の研修	10月23日～26日	郡山市
専門	時代別研修：奈良・平安時代	時代別の専門的な知識を習得する研修	12月11日～14日	白河市
専門	館長講義「石器の属性分析について」	個別のテーマで専門的知識や最新の研究成果を学ぶ研修	2月15日	白河館
特別	教職員発掘調査研修	発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修	8月8日～10日	白河市
特別	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	随時	白河館
特別	派遣要請研修	市町村等の要請によって随時、職員を派遣して行う研修	随時	白河館

平成13年度文化財研修実施一覧

27・28日の藤原氏の講義では、石の割れ方から始まり、石器の剥離痕から製作課程を復元すること、具体的には剥離痕の重複から、剥離順序の先後を決め、製作技法を復元していくために必要な観察の要点等について解説していただいた。さらに、実際に石器を観察し、その結果を実測図に表すための技術等について、細部にわたって研修した。29・30日は、受講者各人が持ち寄った石器を実際に観察・実測し、最後に作成した実測図を評価して研修を終了した。

(3) 専門研修(時代別研修 奈良・平安時代)
調査・整理について十分な経験を有する者を対象とし、奈良・平安時代についての見識をより深め、今後の調査・研究・活用に生かすことを目的とし、「古代陸奥国の考古学」と題して実施した。

福島大学の工藤雅樹教授、東北学院大学の辻秀人教授を講師にお招きした。研修期間は12月11日～14日の4日間である。受講者は19名で、その内訳は市町村等で文化財保護を担当している職員が17人、大学院の学生が2名である。

11・12日には工藤教授に、東北地方で国造の成立からその解体、これに続く国郡制の成立と内容について、先生がまとめられた文献資料を使い、東北各地の発掘調査例を加味して、講義していただいた。また、先生の研究テーマでもある東北の古代史を特徴づける、蝦夷との関連についても最新の研究成果をお聞きすることができた。

13・14日には辻教授に考古資料から、いか

に東北の古代史を復元していくかについて、先生のこれまでの土器研究の成果を実例として、その分析・総合の方法論について講義をしていただいた。また、県内から出土した瓦を実際に観察しながらの研修は、瓦の製作手法認定のポイントとその時間的推移、瓦製作の技術系譜とその背景等について、先生の最も精通されている研究分野でもあることから、非常に分かりやすい講義となった。受講者からも、両教授の丁寧な講義、普段、手に取ることが難しい遺物を実際に観察しながら講義を受けることができた事などについて、好評を博した。

(4) 特別研修(教職員研修)

教職員を主たる対象とし、歴史教育の教材としての文化財をより身近なものとするため、埋蔵文化財の発掘技術について実地研修を開催した。研修は白河市教育委員会が調査を実施している、下総塚古墳を会場とし、地域の歴史を理解するために周辺遺跡の見学も含めて構成とした。研修期間は8月8日～10日の3日間である。受講者は33名であった。

研修参加者からは、「教科書で見ただけだった古墳や遺跡を自分の手で感じる事ができ、とても身近に感じる事ができた。」また、この地域が古代において白河郡の中心で、6～7世紀ころの下総塚古墳と首長の屋敷跡(舟田中道遺跡)、8～9世紀頃の郡の役所(関和久遺跡・関和久上町遺跡)やこれに伴う寺(借宿廃寺)、役所の上級役人の墓(谷地久保古墳)など、「ミニ飛鳥とも言える歴史環境を知って、自分たちの身近にこんな文化財・歴史があったことに驚いた」等の感想が寄せられた。



遺物を使った辻先生の講義



下総塚古墳で行った教職員研修

(5) 特別研修(随時館内研修・派遣要請研修)

随時館内研修は、受講者が当館を訪れ希望する研修を受講するもので、墨書土器の判読や石器の使用痕観察、遺物写真撮影や遺物整理・報告書の作成についての研修を延べ28日間実施した。その中では、市町村ではなかなか揃えることの難しい器材を使用しなければならない、墨書土器に書かれた文字の判読と石器の使用痕の観察、写真撮影の研修が延べ25日を占めている。石器の使用痕観察については、たまたま職員にこれを研究テーマとしている者がおり、観察に欠くことのできない金属顕微鏡も所有していたことから、これを使うことで受講者の希望に添うことができた。これらの研修成果の一部は、すでに発掘調査報告書のなかで公にされている。

派遣要請研修は、受講希望者の要請に応じて職員が現地に赴き研修を行うもので、2件実施した。本年度は遺構をどのように理解すべきかとの課題が多く、課題個々に対する解答だけでなく、基本的には調査員が一人だけで調査を進めざるを得ない状況のなかで、相談・議論に乗ってくれる者が求められている現実を知ることができた。

5. 今後の課題

現状の一番の問題は、受講者が集まらず、定員に満たない状態が続いていることである。その原因については、予算の削減や文化財担当職員の減員、開発事業の減少にともなう埋蔵文化財の発掘調査の削減等々、社会的な問題が背景にあることは否めない。これらについての具体的な対応については本館では難しいが、研修内容の充実や資料の見直し、研修期間や案内方法の改善、適切な定員の検討等々、本館が今できるものについては、すでに調査・検討を進めている。また、随時館内研修の実績からは、器材の充実・講師の専門性の向上が、研修ニーズの掘り起こしに有益であることが窺われる。

研修参加者の内訳をみると、市民ボランティア等の参加が決して少なくないことは平成

13年度の実績にも現れている。文化財を市民レベルで活用して行くことが望まれている現在、これらの人にも重点を置く必要があるだろう。研修という形ではあるが、外部の人々が遺跡の調査に関わることは、結果的にあの忌まわしい捏造事件以後、文化財保護(行政)に求められている、透明性を増すための具体的な方策としても評価できるだろう。

6 体験学習事業

平成13年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下のとおりである。

1. 常時体験型

① 個人対応メニュー

ア 勾玉づくり

滑石を紙ヤスリで削り、原始・古代の装身具である勾玉を製作する。

イ アンギン編み

むしろ編みの原理で、カラムシの糸を用いて10cm角程度の布を編む。

ウ カラー拓本

土器に触れ、模様を観察してもらうことを目的に、拓墨や絵の具で拓本をとる。

エ 土器にさわる

体験活動室に縄文土器などを露出展示し、解説を加えながらさわってもらう。

オ 時代衣装を着る

縄文時代から江戸時代までの各衣装を試着する。

カ 石器を使う

黒曜石や珪質頁岩の剥片で紙を切り、切れ味を体験したり、復元した磨製石斧



勾玉づくり

で丸太を切る。

キ 火おこし

「まいぎり」や「もみぎり」による火おこし体験。当初、体験活動室で実施していたが、後に屋外で行うようになった。

勾玉づくりは人気があるため、通年実施した。もうひとつのメニューは、2週間単位で交換して実施した。常時、二つのメニューを体験活動室において行ったことになる。

材料費については、来館者が製作し、持ちかえるものについてのみ実費を負担してもらうこととした。「勾玉づくり」の材料費を400円、「アンギン編み」を300円に設定した。団体対応における材料費も、個人対応メニュー同様である。

② 団体対応メニュー

以下の体験メニューから選択してもらうこととした。

ア 勾玉づくり イ アンギン編み
ウ 火おこし エ 土器にさわる

内容については個人対応メニューと同様である。「土器にさわる」は、一般収蔵庫に団体客を案内し、露出収蔵している土器に触ってもらった。「勾玉づくり」を希望する団体が7～8割、「火おこし」が1～2割程度、「アンギン編み」と「土器にさわる」の希望は数団体であった。個人および団体、体験学習を行った人数の、入館者数に対する割合は、約3割であった。

	入館者数	体験者数	体験者比率
7月	4,334	707	16.3%
8月	8,432	2,299	27.3%
9月	4,613	1,644	35.6%
10月	4,755	1,649	34.7%
11月	3,933	1,347	34.2%
12月	1,424	422	29.6%
1月	1,742	567	32.5%
2月	1,613	746	46.2%
3月	1,921	411	21.4%
合計	32,767	9,792	29.9%

常時体験メニューの利用状況

2. 募集型

① 実技講座

原始・古代の技術にふれる単発のプログ



凧をつくろう

ラムである。募集人数は20名、ただし「古代の機織に挑戦」は随時受付とし、特に定員を定めなかった。実施日はおもに第3日曜日とした。

ア 縄文土器づくり

出土した縄文土器と見比べながら製作した。一人あたりの粘土使用量は2kgである。

イ 土鈴・土笛づくり

アテンダントが予め、出土品をもとに参考品を製作した。一人あたりの粘土使用量は0.5kgである。

ウ アンギン編み

ダンボールで各々簡易なアンギン台を製作した後、カラムシの糸で10cm四方ほどの布を編んだ。自作の台は持ちかえってもらった。

エ 原始機に挑戦

常設展示の弥生時代と古墳時代の竪穴住居に設置し、来館者に体験してもらった。事前の申込みは不用とし、随時対応した。

オ 竹笛づくり

	内 容	実施日	参加者数
第1回	縄文土器を作ろう	8月12日	15名
		8月18日	15名
		11月4日	11名
第2回	土鈴・土笛を作ろう	9月16日	21名
		11月4日	20名
第3回	縄文の布を編もう	10月21日	21名
第4回	古代の機織に挑戦	11月18日	15名
第5回	縄文の楽器を作ろう	12月16日	15名
第6回	凧を作ろう	1月20日	7名

実技講座実施状況

館内に植栽した矢竹を用いて、パンパイプふうの笛や横笛を作った。

カ 凧をつくろう

白河市みさか在住の國田欣二氏を講師に招き、和紙と竹ひごを材料に凧を作った。実技講座の参加者数を左の表に示した。

② イベント

遺跡見学や年中行事にちなんだイベントを組んだ。実施日はおもに第1日曜日である。

ア 体験発掘ツアー

矢祭町教育委員会の協力を得て、同町内の高渡遺跡で実施した。関心が高く、25名の募集に対し、40名を越える応募があった。縄文時代の遺物包含層を、約3時間発掘した。

イ 古代グルメ祭

古代グルメ祭のメニューは、イノシシ肉やキノコ、山芋を使ったスープと、マテバシイ・カヤの実、クリなどをすりつぶし、ウズラの卵でつないだクッキーである。調理には、黒曜石の剥片、復元した縄文土器、磨石や石皿を用いた。

ウ 餅つき大会

特に定員を設けず、当日参加も可とした。「奈良時代の家」のカマドを使用してモチ米を蒸し、復元した臼と杵を用いてついた。モチ米は、「古代の畑」で収穫した陸



餅つき大会

	訪 問 先	実施日	内 容	参加者数
第1回	いわき市立平第五小学校子供会1～6年	10月14日	土器にさわる、勾玉、火おこし	78名
第2回	相馬市立磯部小学校6年総合学習	10月23日	火おこし	25名
第3回	福島市立金谷川小学校6年社会科	11月13日	土器にさわる、勾玉、火おこし	33名
第4回	いわき市立玉川中学校3年選択社会	1月11日	火おこし	25名

おでかけまほろん実施状況

稲の糯をあてたが、収量が足りず、ボランティアが持ち寄ったモチ米も使用した。

エ ひな祭

紙粘土や折り紙、千代紙を使って簡単な雛人形を作った。場所は講堂を使用し、アテンダントが所持している雛人形を飾った。

	内 容	実施日	参加者数
第1回	体験発掘ツアー	9月2日	25名
第2回	古代グルメ祭り	10月7日	22名
第3回	餅つき大会	12月2日	40名
第4回	ひな祭り	3月3日	25名

まほろんイベント実施状況

③ まほろん探検隊

平成13年度は8月から11月まで、毎月第2土曜日に実施した。メンバーは年度を通して固定で、小学5年生から中学3年生までという年齢制限をつけた。募集人数20名に対し、8名の応募があった。活動内容は、縄文時代に関するものとした。活動場所は、体験学習館と「縄文時代の家」である。

	内 容	実施日	参加者数
第1回	縄文土器作り	8月11日	8名
第2回	縄文土器作り、土鈴・土笛作り	9月8日	8名
第3回	ドングリ拾い	10月13日	7名
第4回	土器野焼き	11月4日	7名
第5回	縄文料理作り	11月24日	7名

まほろん探検隊実施状況

ア 縄文土器づくり1

出土した縄文土器をモデルにし、一人あたり5kgの粘土を用いて土器を製作した。粘土は、教材用として市販されているものを使用した。1回目は成形段階までとした。輪積みで積み上げるのが難しく、途中で崩れたり、粘土を余らせる子供が多かった。

イ 縄文土器づくり2、土鈴・土笛づくり

縄文土器づくりの2回目は、模様つけと内面のミガキ等を行った。縄文原体に

はカラムシの繊維を用い、内部のミガキにはハマグリの貝殻や小石を使用した。

ウ 土器野焼き

製作した縄文土器を焚火で焼いた。場所は風あたりの弱い「室町時代の館」の空堀とした。実技講座で製作した縄文土器や土鈴・土笛も合わせて焼いた。市販の粘土は野焼きに耐えられず、割れたものが多かった。

エ 縄文料理づくり

メニューは、古代グルメ祭と同様、イノシシのスープと縄文風クッキーである。子供達が製作した土器で調理する予定だったが、大半が野焼きで割れてしまったため、館で用意した復元品を用いた。

3. 館外体験学習支援事業

この事業には、「おでかけまほろん」という通称を付した。当館の職員が学校、公民館等

の教育機関に出張し、体験学習の支援等を行うものである。平成13年度は、4回実施した。抽選を行わず随時受け付けし、先着順とした。しかし、予定回数を上回る問い合わせがあったため、近隣市町村の学校には御遠慮いただくこととなった。訪問先と実施内容は、前表に示した。いずれも、当館職員が中心となって進める「まほろんコース」である。

4. 館長講演会

平成13年度には、一般県民を対象とした藤本館長による館長講演会を4回開催した。日時や内容の概要については、下表の「館長講演会日程」に示した。

5. まほろん文化財講座

平成13年度には、まほろん文化財講座として、当館の学芸員による一般県民を対象とした講演を3回開催した。内容等は下表の「まほろん文化財講座日程」に示した。

開催日	演 題	参加者数
9月29日	第1回「考古学とはどんなもの？」	40名
10月27日	第2回「何年前はこうしたらわかる？」	65名
11月24日	第3回「考古学から何がわかるの？」	45名
12月22日	第4回「人間のきた道はどんなもの？」	40名

館長講演会日程

開催日	内容	担当学芸員	参加者数
12月9日	「古墳時代のおはなし」	青山博樹	15名
1月13日	「奈良・平安時代のおはなし」	荒木 隆	30名
2月21日	「縄文時代のおはなし」	松本 茂	47名

まほろん文化財講座日程



館長講演会「考古学から何がわかるの？」



文化財講座「縄文時代のおはなし」

—コラム—

まほろん植物誌（2）

タラノキ 春にまほろんの林の中を歩くと、トゲが密生した恐ろしい低木を見ることができます。これがタラノキです。林をよく手入れしているためたくさん生育しています。新芽（右の写真）は福島では「タラボ」と言われ、春の山菜として有名です。てんぷらにして食べることができます。8月には細かい白い花をたくさん咲かせます。



7 常設展事業

1. 構成

- (1) プロムナードギャラリー
- ① 「象徴展示」
 - ② 「探してみよう福島の文化財」
 - ③ 「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- (2) 常設展示室
- ① 「めぐみの森」
 - ② 「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉〈旧石器時代〉〈生と死〉
 - ③ 「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
 - ④ 「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
 - ⑤ 「みんなの研究ひろば」
 - ⑥ 「クイズ福島歴史発見」
 - ⑦ 「のぞいてみよう福島の遺産」
 - ⑧ 「しらかわ歴史名場面」
 - ⑨ 映像展示「ふくしまの文化財ーいのちのかたち」

2. 展示替え

平成13年7月15日の開館以降、以下のコー

展示期間	資 料 名	点 数	所 有 者
010715～010731	和台遺跡出土土人面土器(大木10式)実物	1	飯野町教育委員会
010715～011027	和台遺跡出土土人面土器(大木10式)レプリカ	1	飯野町教育委員会
010715～011027	和台遺跡出土狩猟土器(大木10式)	1	飯野町教育委員会
010715～020206	宮城県築館町伊治城跡出土「弩一機」レプリカ	1	館蔵
010715～020206	「弩」復元資料	1	館蔵
010715～020206	「弩一矢」復元資料	1	館蔵
010715～020206	「弩」構造模型	1	館蔵
010715～020328	弘法山横穴墓群出土土師器	2	館蔵
010715～020328	弘法山横穴墓群出土須恵器	3	館蔵
010715～020328	弘法山5号横穴墓出土象嵌入直刀	1	館蔵
010715～020328	弘法山横穴墓群出土直刀	2	館蔵
010715～020328	弘法山横穴墓群出土鉄鏃	7	館蔵
010715～020328	弘法山7号横穴墓出土刀子	1	館蔵
011028～020328	町屋遺跡出土「硬玉製大珠」	1	大信村教育委員会
011028～020328	法正尻遺跡出土「硬玉製大珠」	1	館蔵
020207～	江平遺跡出土「木簡」	1	館蔵
020207～	江平遺跡出土「木簡」レプリカ	1	館蔵
020207～	江平遺跡出土「笛」	1	館蔵
020207～	江平遺跡出土「笛」レプリカ	1	館蔵

「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧

ナーにて大幅な展示替えを行った。内容及び展示資料は下の表のとおりである。

◆遺跡を掘る一話題の遺跡

◆みんなの研究ひろば

◆しらかわ歴史名場面

3. 資料貸出

常設展示資料である模型・レプリカの貸出件数は1件である。

横浜市歴史博物館企画展「東へ西へ一律令国家を支えた古代東国の人々」展示のため、白河軍団兵士復元模型(多賀城へ赴く軍団兵士)1体を平成14年3月23日～5月23日まで貸し出した。

4. 展示資料の損壊等

常設展示は、来館者の観察しやすさと親近感を考慮し露出展示を多用している。そのため手が届く範囲に資料があり、損壊の危険性も孕んでいる。下記の損壊はいずれも一般来館者が行ったものと考えられるが、状況から判断すると故意に損壊したものではなく、触れてみたいという興味からなされた偶発的な損壊と考えられる。ある程度予想された範囲内の軽微な損壊であり、来館者の数における発生比率は約2,000人に1件という割合で極めて低い。現在のところ良識ある来館者が多数

であると言えよう。

◆めぐみの森

植物造形物の内、手の届く範囲にあるクマザサの折損が3件あった。

◆暮らしのうつりかわり

各時代の食物レプリカの接着部分を剥がし取る損壊が5件あったが、盗難は無かった。

◆暮らしをささえた道具たち

触れるコーナー展示中の復元品の内、石包丁と石ペラ、離頭銛先の3点の石器が折損した。

製鉄模型の樹木の折損が1件あり、下草や樹木の葉をむしられることが数件あった。

古墳時代の馬具を装着した馬の模型を展示し、小学生以下の希望者には「乗馬」も体験させている。

◆遺跡を掘る

発掘調査模型の折損が3件あった(人物及び一輪車、物干竿)。折り取られた当該部分

は模型ベース上にそのまま放置されていた。

5. メンテナンス

平成14年3月18日に常設展造形・造作物のメンテナンスを(株)乃村工芸社に、AV機器メンテナンスを(株)エイブイセンターに委託して行った。内容は以下のとおりである。

- 造形物の清掃作業
「めぐみの森」の植物造作、「暮らしのうつりかわり」各時代ブースの清掃。
- 造形物の修復作業
前項4.に記した損壊部分の修復。
- 造作物の修復
「暮らしのうつりかわり」各時代ブースの壁面及び床面の素材が乾燥に伴って収縮し、亀裂や隙間が生じたことから、当該部分の修復を行った。
- 展示什器のメンテナンス
来館者の靴先などによって展示什器のはかま部分の合板に小さな剥離が生じたため、当該部分を彩色で補った。

展示期間	氏名	資料名	点数
010715~011201	宮田龍一君 (福島市) 福島大学附属小学校3年生	ハート形土偶レプリカ(自作)	1
		踊る埴輪レプリカ(自作)	1
		研究ファイル	1
		自作絵本「縄文」	1
		宮田龍一君紹介パネル	1
010715~011201	今井恭平君 (会津若松市) 謹教小学校5年生	研究ノート	1
		県博採集土器	1
		三貫地貝塚出土土面レプリカ(自作)	1
		大木8b式縄文土器レプリカ(自作)	1
		今井恭平君紹介パネル	1
010715~020331	菊地鐵夫さん (福島市) 会社員	菊地鐵夫採集石器	1
		研究ファイル	1
		昭和29年11月17日新聞	1
		菊地鐵夫氏紹介パネル	1
010715~020331	渡部久子さん (会津若松市) 美容師	三島町荒屋敷遺跡土偶「髪形」	1
		埼玉県後谷遺跡土偶「髪形」	1
		青森県三内丸山遺跡土偶「髪形」	1
		渡部久子氏紹介パネル	1
011201~020331	鈴木彩香ちゃん (白河市) 関辺小学校5年生	勾玉製作実験資料	1
		勾玉研究経過写真等	1
		「阿武隈川でメノウをみつけよう」研究ファイル	1
		採集鉱物等標本	1
011201~020331	鈴木綾ちゃん (浅川町) 里白石小学校4年生	「古代米をそだててみよう!~古代米作りにちょうせん!」 研究ファイル	1
		稲束	1

「みんなの研究ひろば」展示資料一覧

展示ケースの電球交換を行った。

• 展示機器のメンテナンス

「映像ふくしまの文化財—いのちのかたち—」4面マルチ機器の調整を行った。特に異常は認められなかった。

「探してみようふくしまの文化財」の操作

卓及び17インチモニターは混雑時期にフリーズすることがあったが、その後時間の経過と共に復活している。メンテナンス調整を行ったものの異常は認められなかった。モニター設置場所の温度上昇に伴って異常が発生したと考えられる。

展示期間	タイトル	資 料 名	点数
010715～020129	古代白河郡と白河軍団	白河軍団兵士復元模型（多賀城に赴く軍団兵士）	1
		白河軍団兵士復元模型（戦場の軍団兵士）	1
		軍団「火」装備品復元品（紺布幕など）	10
		軍団「隊」装備品復元品（手鋸など）	3
		多賀城跡出土軍団関係木簡レプリカ（白河団、安積団）	2
		多賀城跡出土軍団関係漆紙文書レプリカ（行方団）	1
		泉崎村関和久遺跡出土軒丸瓦	1
		泉崎村関和久窯跡出土軒丸瓦	1
		泉崎村関和久遺跡出土軒平瓦	1
020130～020331	白河市内出土 文字を記した土器	泉崎村関和久遺跡出土「白」墨書土器	1
		白河市前桜岡遺跡出土「昌」墨書土器	8
		白河市前桜岡遺跡出土「田上」墨書土器	1
		白河市上根田ケ入遺跡出土「大」墨書須恵器	1
		白河市上根田ケ入遺跡出土墨書土器「大家」「下家」「大」「太」	4
		白河市上根田ケ入遺跡出土「大」刻書土器	1

「しらかわ歴史名場面」展示資料一覧

8 企画展事業

1. 第1回 開館記念特別展

「はにわ一座がやってきた」

平成13年7月15日(土)～9月1日(日)

(1) 趣 旨

古墳時代を代表する遺物の一つに埴輪がある。一般にもよく知られる埴輪であるが、その場合、埴輪＝人物埴輪とイメージされることが多い。人物埴輪は県内でも資料が比較的豊富で、いわき市神谷作古墳出土品（国重要文化財）、泉崎村原山古墳出土品（県重要文化財）など優品も多く存在する。

当企画展では、上記資料と、関東地方および関西地方の人物埴輪の優品を揃え、その特徴的な姿やしぐさ、表情から、人物埴輪に表現される階層性・職能性をわかりやすく紹介する。企画展のタイトルは、人物埴輪を、古墳という「舞台」で物語を演じる「役者」との見方から付けたものである。

一方、人物埴輪は当時の人々の衣装・髪



展示のようす

型・アクセサリ・持ち物などを知る上での貴重な資料でもある。展示では人物埴輪に描写された器物を、同時代の出土品や、複製品・復元品を並列的に演示し、人物埴輪から古墳時代人の姿をより具体的にイメージできるよう配慮した。

(2) 展示内容

- 1 主演男優 — 貴公子の姿 —
- 2 ゴージャス!! — 華やかな巫女の世界 —
- 3 古墳を彩る名脇役たち
- 4 はにわダンスとバンドマン

- 5 はにわの武装
- 6 僕らは古墳警備隊
- 7 はにわの武装
- 8 身に付けた鈴の音色
- 9 はにわ人のアクセサリー
- 10 はにわの楽器

によるギャラリートークを開催した。



(3) 関連行事

記念講演会

講師 杉山晋作氏 (国立歴史民俗博物館)

助教授「はにわ人と持ちもの」

8月19日(日)13:30~15:00 当館講堂

聴講者数 50名

講演終了後、特別展示室において杉山氏

図録表紙

	資料名	遺跡(出土地)名	所蔵	特記事項
1	埴輪 男子胡座像	いわき市神谷作101号墳	福島県	国重要文化財
2	埴輪 女子立像複製品	群馬県伊勢崎市	群馬県立歴史博物館	
3	埴輪 女子腰掛像複製品	群馬県大泉町	群馬県立歴史博物館	
4	埴輪 女子立像	いわき市神谷作101号墳	福島県	国重要文化財
5	埴輪 力士	泉崎村原山1号墳	泉崎村資料館	
6	埴輪 人を乗せた馬	群馬県太田市	群馬県立赤城養護学校	
7	埴輪 農夫	埼玉県熊谷市	さきたま資料館	
8	埴輪 巫女立像	群馬県塚廻り3号墳	文化庁	国重要文化財
9	埴輪 踊る男	群馬県	長瀨総合博物館	
10	埴輪 四つ竹を持つ男子	埼玉県寺浦1号墳	埼玉県上里町郷土資料館	
11	埴輪 打鼓男子	泉崎村原山1号墳	福島県立博物館	
12	埴輪 琴を弾く男子	泉崎村原山1号墳	福島県立博物館	
13	埴輪 角笛を持つ人物(腕)	大阪府昼神車塚古墳	高槻市教育委員会	
14	埴輪 武人	群馬県	国立歴史民俗博物館	
15	埴輪 盾持人	泉崎村原山1号墳	福島県立博物館	
16	衝角付冑・挂甲復元品	大阪府長持山古墳	大阪府立近つ飛鳥博物館	
17	小札	いわき市中田横穴	いわき市教育委員会	
18	盾復元品	大阪府和泉黄金塚古墳	大阪府高石市教育委員会	
19	弓復元品	大阪府土保山古墳	大阪府高石市教育委員会	
20	鞞・矢復元品	大阪府土保山古墳	大阪府高石市教育委員会	
21	胡禄復元品		まほろん	
22	刀子	秋田県田久保下遺跡	秋田県教育委員会	
23	鹿角装刀子復元品		まほろん	
24	銀装圭頭大刀復元品	群馬県観音塚古墳	高崎市観音塚考古資料館	
25	5鈴鏡	出土地不明	明治大学考古学博物館	
26	馬鈴	いわき市中田横穴	いわき市教育委員会	
27	6鈴釧	いわき市弾正作横穴	いわき市教育委員会	
28	鈴付大帯複製品	群馬県綿貫観音山古墳	群馬県立歴史博物館	
29	鈴釧を付けた埴輪(腕)	出土地不明	長瀨総合博物館	
30	垂飾付き耳飾	群馬県剣崎長瀨西遺跡	高崎市教育委員会	
31	ナツメ玉・勾玉・ガラス玉	いわき市中田横穴	いわき市教育委員会	
32	銅釧	いわき市中田横穴	いわき市教育委員会	
33	耳環	いわき市中田横穴	いわき市教育委員会	
34	横櫛	宮城県山王遺跡	東北歴史博物館	
35	玉類	青森県丹後平古墳群	八戸市立博物館	
36	琴復元品	滋賀県杉の木遺跡	滋賀県蒲生町教育委員会	
37	四つ竹		個人	
38	須恵器はそう	郡山市正直A遺跡	まほろん	
39	鞞形埴輪	静岡県堂山古墳	磐田市教育委員会	
40	金銅製冠	栃木県桑57号墳	小山市立博物館	

展示品一覧

2. 第2回開館記念特別展

「復元！三角縁神獣鏡」

平成13年10月27日(土)～12月2日(日)

(1) 趣旨

白河館の整備業務で行ってきた会津大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡の復元をテーマに、古代の鑄造技術と復元研究の成果についての展示を行った。

三角縁神獣鏡とは、卑弥呼の鏡との説もあるナゾの多い考古資料である。東北では会津若松市の会津大塚山古墳から1枚だけ出土している。そしてこれと同じ形をした鏡が岡山県の鶴山丸山古墳からも出土している。この両者を比較すると鑄型についていたと思われる傷までが同一であることから、同じ鑄型から作られたらしいことがわかる。いわゆる同範法といわれる方法である。ただし、このような方法で複数の鏡を作ることは技術的に無理であるという考えもあり、この鏡をめぐる論争のひとつとなっている。当館では、この三角縁神獣鏡の復元を同範法によって試み、初めてこれに成功した。展示では来館者にその過程を追体験してもらうような構成とした。

(2) 展示内容

第Ⅰ部 ふくしまの三角縁神獣鏡はこうして出土した

1 会津大塚山古墳の発掘調査



ポスター



展示のようす

2 会津大塚山古墳の出土品

3 近県出土の鏡

第Ⅱ部 鑄造ってナニ？

1 県内出土の鑄造関連遺物

2 現代の鑄造製品

第Ⅲ部 鏡を観察してみよう

1 会津大塚山古墳と岡山県鶴山丸山古墳の三角縁神獣鏡

鑄型の剥離、ひび割れ、鑄型の補刻

2 三角縁神獣鏡にみられる製作の手がかり

第Ⅳ部 鏡はこうして復元した

1 鑄型を作る

2 第1回目の鑄込み

3 鏡を取り出す

4 第2回目の鑄込み

5 完成した同範鏡

第Ⅴ部 鏡と鑄型にさわろう！

第Ⅵ部 三角縁神獣鏡に顔をうつしてみよう！

(3) 記念講演

日時 11月11日(日)

講師 鈴木 勉 氏 (奈良県立橿原考古学研究所 所員)

タイトル 「最先端技術があかす三角縁神獣鏡のナゾ」

3. 収蔵資料展

「新編陸奥国風土記 卷之一白河郡」

平成14年2月2日(土)～3月31日(日)

(1) 展示構成

収蔵資料展は、当館で収蔵している県内各地の遺跡から出土した資料を紹介するも

のである。

「新編陸奥国風土記」の展示は、収蔵資料をそれぞれの郡単位に分け、郡ごとの資料の中から旧石器～平安時代の特徴あるものを選び出して紹介した。

紹介するにあたっては、奈良時代に福島県が属していた陸奥国のことを書いた「陸奥国風土記」をキーワードにした。陸奥国風土記は現存していないため、発掘調査の成果から風土記の復元を行っていくという構成で展示を行った。

具体的には、展示で取り上げる遺跡を題材にした架空の風土記風物語を作り、それと展示物を対比させる方法をとった。

このような手法によって陸奥国風土記の内容を想像豊かにイメージしてもらうとともに発掘調査の成果からみえてきたそれぞれの郡の原始・古代のようすを伝えられるようにする。

(2) 展示内容

第1回目であるこの展示では、古代白河郡の地域にあたる白河市・東白川郡・西白河郡・石川郡の地域を対象に資料を選定し、以下のようなコーナー構成で展示を行った。

① 古代白河郡の役所を発見！

古代白河郡家推定地の泉崎村関和久遺

跡および関和久上町遺跡のようすを紹介した。

② 食器から探る古代白河の暮らし

カマドの出現に伴う土師器の変化や須恵器の普及状況などについて紹介した。

③ 古代白河の文字

墨書土器に書かれた文字からどのようなことがわかるのかについて紹介した。

④ 白河軍団出動！

多賀城跡出土木簡に記載されていた古代の白河軍団について紹介した。

⑤ 古代白河の死後の世界

古墳～平安時代までの墓の変化を円墳、横穴墓、土坑墓を中心にして紹介した。

⑥ 白河の匠の技

石・土・金属の三つの材質別に旧石器～平安時代までの道具の変化を紹介した。

⑦ 白河美人の顔

縄文時代の土偶や人面付き土器などの顔が描かれた資料を集めて展示した。

⑧ チャレンジ！ 陸奥国風土記～白河郡

創作した陸奥国風土記の記事から現在の市町村名を答えるクイズを行った。

展示資料

関和久遺跡出土墨書土器「白」・「厨」、矢吹町白山C遺跡出土土師器・須恵器、東村赤根久保遺跡出土墨書土器「宝丁」、復元された白河軍団兵士像、矢吹町弘法山古墳群出土勾玉・管玉、白河市一里段A遺跡出土ナイフ形石器、石川町七郎内C遺跡出土土偶など

展示資料総数 120点

○ 新編陸奥国風土記 白河郡編（抜粋）

陸奥国司 解し申す 古老相伝旧聞の事
国郡の旧事を問ふに 古老答へて曰く
古は相模国の足柄岳坂より以東の諸の県は惣て我姫国と称ふ

是の当時 陸奥と言わず 唯 白河 石背 安積 信夫 石城 標葉 行方 宇多 伊具 亘理の国と称ふ 各造 別を遣わして檢校せしむ

其の後 難波長柄豊前大宮に臨軒天皇の世に至り 高向臣 中臣織田連等を遣はし 坂より巳東の国を惣領せしむ 時に我姫の道 分かれて 八国となり 陸奥国 其の一に居れり



ポスター

郡家（泉崎村）

郡家の南を逢隈川が流れ舟の往来甚だし又南に通る東山道は下野国と国府多賀城を結ぶ古より白河大領那須臣の治める地なり川の南に大領の始祖たる白河国造の墓ありて近くに寺あり

白河関（白河市）

白河の郡は陸奥国の南界にして古より道と河の便よし故に今も東山道の要衝なり巻向の日代の宮に御宇しめしし天皇の時勅命により関を設けりこの時海道の菊多にも設けらる両関は陸奥の関門なれど民多く往来那須嶺（西郷村）

郡の南西に那須嶺あり那須の郡との界なりこの嶺より出でたる小川は後に広がり巨理の郡にて海に続く逢隈川と成れり此の地は逢隈川の源流なり

鬼穴（矢吹町）

古老の伝えて曰へらく昔此の地に鬼ありき鬼の住む石室は土の中にありて黄泉国に通ずると云ふ日本武尊に鬼が征討たれて後ただ地中に穴があるのみと成れり

鉾立山（表郷村）

古老曰へらく巻向の日代の宮に御宇しめしし天皇の時日本武尊東の夷を征伐ちて此の地に到りまし此の地の土蜘蛛いと猛きなるに因りて尊都々古山に登りて天照大神に御鉾を立てて賊を征伐つことを祈りき故に此の山を都々古山より鉾立山と改む

青葉山（浅川町）

社の川の辺に青葉山あり青葉山の頂きには鬼が住み地を踏み鳴らすと云ふ毎年夏八月の夜には雷の如き明かりと山を震わす大きな音聞こゆ此れ国中の鬼が集いて宴を開き踊る故なり

鳥内（石川町）

逢隈川の辺に地中より古の甕が数多固まりて出る所あり里人訝しく思い甕の中を調べたところ甕中より人の骨に混じりて土で作られし鳥形代出る故に鳥内と云う

川辺（玉川村）

先の白河少領の治める地は逢隈川の辺にあり些万呂と云ひし仏法を厚く敬う者金光明最勝王経を百万遍唱え百姓の範となる些万呂の宅近くに先の白河少領の墓あり

9 ボランティア運営事業

1. 登録

当館ボランティアの新規登録は、登録前オリエンテーションで概要説明を聞き、活動内容を十分知った上で一般研修を受講した希望者を館長が毎年4月1日付けで登録する形をとっている。

そのため、平成13年度登録者は開館時に登録された者だけで、平成13年度に一般研修を受講した者は平成14年度新規登録ボランティアとして登録される。

平成13年度ボランティアについては下表のとおりである。

平成13年度登録者数	57名
平成13年度登録最年少年齢	23歳
平成13年度登録最長年齢	79歳
平成13年度登録者平均年齢	56.1歳
平成14年度新規登録者対象登録前オリエンテーション参加者	12名
平成14年度新規登録者対象一般研修受講者数	11名
平成14年度新規登録申込受付期間	平成13年10月2日(火)～31日(水)
登録前オリエンテーション実施日	平成13年12月2日(日)

ボランティア登録状況

2. 活動内容

まほろんボランティアの平成13年における活動内容は以下のとおりである。

- 屋内及び野外展示施設の案内・解説
- 屋内及び野外で行う体験学習の指導
- エントランスホール及び館内の案内
- 収蔵資料の整理補助



展示のようす

種 別	研修 No.	研 修 項 目	平成13年度登録者 対象研修実施日	平成14年度新規登録者 対象研修実施日
一般研修	1	館内施設概要	14年1月26日	14年2月25日
	2	展示解説1 屋内展示 暮らしのうつりかわり	13年7月1日	14年1月14日
	3	展示解説2 屋内展示 暮らしをささえた道具たち	13年7月1日	14年2月10日
	4	展示解説3 野外展示	13年6月3日	14年2月24日
	5	体験1 活動室での体験(火おこし・拓本)	13年5月20日	14年1月14日
	6	体験2 活動室での体験(アングイン編み・勾玉)	13年6月7日	14年2月10日
	7	体験3 学習館での体験(土笛・土鈴づくり)	13年9月11日	14年3月10日
	8	体験4 学習館での体験(縄文土器づくり)	13年9月30日	14年3月24日
	9	考古資料の取扱い	13年4月22日	14年2月25日
	10	周辺の文化財巡検	13年11月25日	13年11月25日
	11	防災と救急の基礎知識	13年6月17日	外部講師のため 次年度実施
	12	接遇の基本と実践	13年6月17日	
特別研修	3	縄文時代概説	14年2月11日	一般研修修了者対象の ため該当なし
	5	古墳時代概説	13年12月9日	
	6	奈良・平安時代概説	14年1月13日	

ボランティア研修一覧

○講座・講演会開催時における運営支援

○古代の畑の管理などの環境整備の支援

また、ボランティア活動については、現在のところ当館から提案した内容で活動しているが、来年度以降、ボランティアの発想を生かしながら、ボランティアが中心になって実施する自主活動について検討をしていく。

3. ボランティア受け入れ体制

当館のボランティア活動については、交通費や昼食などを支給しない無償ボランティアを原則としている。

しかし、ボランティア活動実施中の事故等を補償するボランティア保険の掛け金、ボランティア用ユニフォーム、休憩室用お茶代、ボランティア研修費用等に関しては当館で負担して、活動環境の整備を図っている。

また、野外及び館内活動中の休憩およびボランティア相互の交流の場として利用できるように体験学習館および本館内それぞれにボランティアルームを設置するとともに、本館内のボランティアルームに活動配置表や活動記録簿を設置して活動の拠点とした。

4. ボランティアコーディネーターの設置

各課ボランティア担当の代表となる教育普及課ボランティア担当がボランティアコーディネーターとしてボランティアに対する当館

の窓口の役割を果たした。

ボランティアコーディネーターが主となってボランティアのスケジュール・活動場所等の調整を行うほか、ボランティアの意見・ニーズの集約などの業務を行った。

5. ボランティア研修

ボランティア活動の充実のためにボランティアを対象とする研修については、全員を対象にした一般研修と希望者を対象にした特別研修及び代表者館外研修の3種類の研修を実施した。実施した研修については、上の表のとおりである。

また、当館で準備する研修のほかに、ボランティアの興味・関心に応じた自主研修グループの組織編成に向けて準備を進めた。



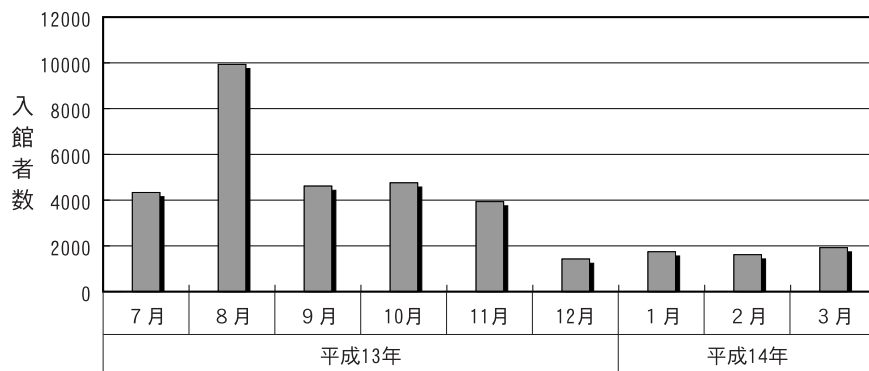
展示案内のようす

第3章 入館者統計

当館は入館無料の公開施設であることから、徴収観覧料の区別から正確な入館者数等をつかみ得ない、そこで、来館者には入館時に居住地（県内は市町村名、県外は県名のみ）・年齢層・人数に関してのみ記帳の協力を得て、できる限り利用者の実態を把握するよう努めている。ここで掲載する利用状況のデータは、入館者の記帳およびリーフレット配布数を基にしたデータから作成した統計である。

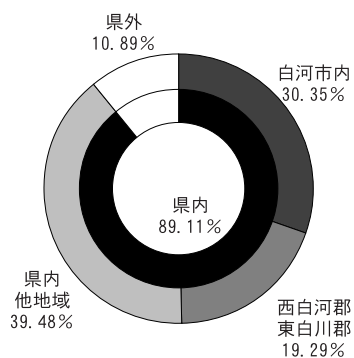
1 月別入館者数

年	月	開館日数	入館者数	月別構成比	日平均	年度累計
平成13年	7月	15	4,334	12.65	289	4,334
	8月	27	9,932	28.98	368	14,266
	9月	26	4,613	13.46	177	18,879
	10月	26	4,755	13.88	183	23,634
	11月	26	3,933	11.48	151	27,567
	12月	23	1,424	4.16	62	28,991
平成14年	1月	23	1,742	5.08	76	30,733
	2月	24	1,613	4.71	67	32,346
	3月	26	1,921	5.60	74	34,267
合 計		216日	34,267人	100.0 %	159人	34,267人

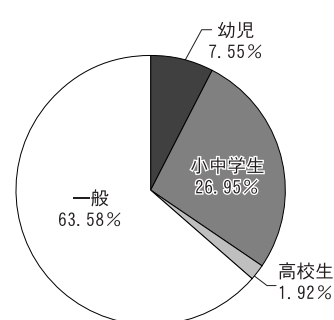


2 区分別利用状況

地域別構成比



年齢層別構成比



3 団体利用状況

団 体			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
学 校 関 係	幼 稚 園	園 数			1	2						3	
		入館者数			53	102							155
	小 学 校	学 校 数		1	10	8	10	3	7	5	1		45
		入館者数		29	612	483	486	134	121	171	14		2,050
	中 学 校	学 校 数				1		2	2				5
		入館者数				128		73	229				430
	高 等 学 校	学 校 数		1		3	1						5
		入館者数		40		256	5						301
	養 護 学 校	学 校 数				2	1						3
		入館者数				88	67						155
	大 学	学 校 数									1		1
		入館者数									50		50
	小 中 高 P T A (保護者のみ)	学 校 数	1		1	3	5	1	1				12
		入館者数	20		18	63	115	21	12				249
	小 中 高 P T A (保護者と児童生徒)	学 校 数		2		4							6
		入館者数		143		235							378
研 究 会	会 数	1	1		7	3						12	
	入館者数	114	24		152	71						361	
子 ども 会	会 数	2	1		2							5	
	入館者数	40	20		41							101	
社会教育関係	公 民 館 等	館 数	4	3	9	9	10	2	2	1	2	42	
		入館者数	143	193	342	261	230	30	37	26	66	1,328	
社会福祉関係	デ イ ケ ア	団 体 数		1	1	7	5					14	
		入館者数		16	13	155	105					289	
文化団体関係	資 料 館 等	館 数	2			4	5	3	5	1		20	
		入館者数	24			57	51	80	46	23		281	
	歴 史 研 究	団 体 数		3	3	1	1	2			1	11	
		入館者数		50	119	22	29	64			70	354	
行政機関関係	県・市町村・教委・ 審議会等	団 体 数	2	5	4	9	19	2	2	4	3	50	
		入館者数	31	45	56	169	311	25	190	75	36	938	
そ の 他		団 体 数	2	2	2	7	8	5	2	1	1	30	
		入館者数	97	101	65	204	184	96	79	15	19	860	
合 計		団 体 数	14	20	31	69	68	20	21	13	8	264	
		団 体 入館者数	469	661	1,278	2,416	1,654	523	714	360	205	8,280	
総 入 館 者 数			4,334	9,932	4,613	4,755	3,933	1,424	1,742	1,613	1,921	34,267	
団 体 利 用 者 の 割 合 (%)			10.82%	6.66%	27.70%	50.81%	42.05%	36.73%	40.99%	22.32%	10.67%	24.16%	

第4章 まほろんの予算

1 一般会計

(単位：円)

収 入			支 出		
大 科 目	中 科 目	決 算 額	大 科 目	中 科 目	決 算 額
受託事業収入	白河館開館準備 事業受託収入	17,039,394	白河館開館 準備事業費		17,039,394
受託事業収入	白河館管理事業 受託収入	267,922,096	白河館管理 事業費	報 酬	9,199,817
				給料手当	123,116,061
				共 済 費	8,930,154
				災 害 補 償 費	0
				賃 金	4,966,833
				報 償 費	1,978,209
				旅 費	4,406,794
				交 際 費	0
				消 耗 品 費	16,356,295
				燃 料 費	289,416
				食 料 費	150,989
				印 刷 製 本 費	10,847,650
				光 熱 水 費	11,840,588
				修 繕 費	2,045,715
				通 信 運 搬 費	8,737,483
				手 数 料	3,588,096
				保 険 料	67,000
				委 託 料	38,339,005
				使用料及び賃借料	15,940,470
				負担金補助交付金	50,700
				保証補填・賠償金	0
				公 課 費	80,300
				消 費 税	6,990,521
				計	267,922,096

2 物品販売特別会計

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
1. 事業収入		1. 事業費	
物品販売収入	5,851,585	販売物購入費	6,607,409
2. 繰入金		包装・宣伝経費	227,926
基金繰入金収入	3,500,000	通信運搬費	9,745
3. 雑収入		2. 繰入金戻入支出	2,000,000
物品売払収入	250,534	3. 長期借入金	1,500,000
預金利息収入	6,665		
4. 期末商品棚卸高	3,124,002		
計	12,732,786	計	10,345,080

第5章 まほろんの条例・規則

1 条 例

(平成13年3月27日福島県条例第43号)
(設 置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 白河館は、白河市白坂字一里段86番地に置く。

(業 務)

第3条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- (2) 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- (3) 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- (4) 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (5) 文化財に関する調査研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- (6) 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(遵守事項)

第4条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- (2) 物品を販売し、又は頒布しないこと(教

育委員会の許可を受けた場合を除く。)

- (3) 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- (4) 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。
- (5) 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第5条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命じることができる。

- (1) 前条の規定に違反した者
- (2) 白河館内の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- (3) 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(使用料の不徴収)

第6条 白河館の使用料は、徴収しない。

(管理の委託)

第7条 教育委員会は、白河館の設置の目的を効果的に達成するため、民法(明治29年法律第89号)第34条に規定する法人であって知事が指定するものに対し、その管理を委託することができる。

2 前項の規定による管理の委託は、同項の知事が指定する法人と教育委員会との協議により、次に掲げる事項を定めて行うものとする。

- (1) 委託する施設の名称、位置、構造及び規模
- (2) 委託の年月日
- (3) 管理の方法
- (4) 委託の条件
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委託に関し必要な事項

(委 任)

第8条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

2 条例施行規則

(平成13年3月27日福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第1条 福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。
- (2) 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- (3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

2 福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 白河館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(文化財等の特別利用)

第3条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第4条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成13年福島県条例第43号）の施行の日から施行する。

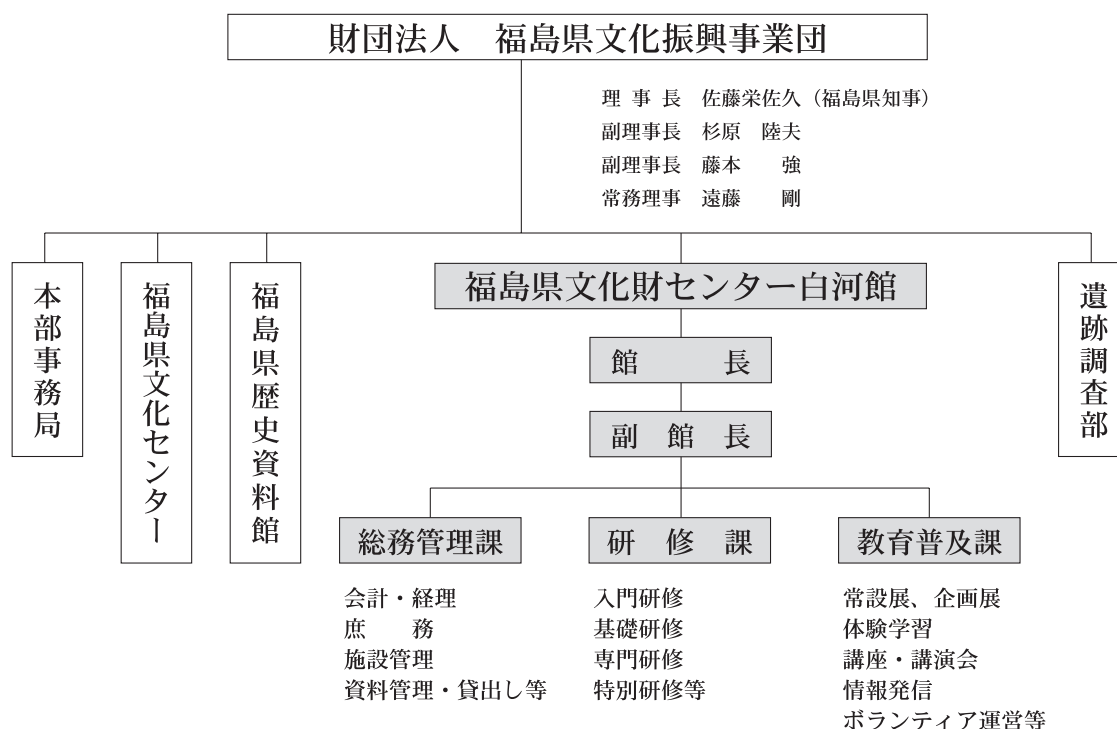


雪のまほろん

第6章 まほろんの組織と職員

福島県文化財センター白河館は、福島県教育委員会から財団法人福島県文化振興事業団に管理運営業務が委託され事業を行う。財団法人福島県文化振興事業団の組織及び福島県文化財センター白河館の組織・業務の概要は以下のとおりである。

1 まほろんの組織



2 職員名簿

課	職 名	氏 名	課	職 名	氏 名
	館 長	藤 本 強		課 長	村 木 亨
	副 館 長	今 泉 忠 廣	教 育 普 及 課	主 任 学 芸 員	森 幸 彦
総 務 管 理 課	課 長(兼務)	今 泉 忠 廣		主 任 学 芸 員	荒 木 隆
	主 査	白 坂 吉 見		主 任 学 芸 員	藤 谷 誠
	主 任 学 芸 員	吉 田 功		主 任 学 芸 員	福 島 稔
	主 事	枝 松 雄 一 郎		副 主 任 学 芸 員	今 野 徹
研 修 課	課 長 心 得	鈴 鹿 良 一		学 芸 員	高 橋 満
	主 任 学 芸 員	松 本 茂		職 員 数 17 名 (内 訳) 派 遣 職 員 8 名 財 団 職 員 9 名	
	主 任 学 芸 員	鐘 水 実			
	学 芸 員	青 山 博 樹			
学 芸 員	伊 藤 典 子				

定数外

アテンダント (嘱託) 5 名

郡司 知子
緑川千彩子
梅村 久美 (~14年1月)
佐久間育子
小黒加容子
甲賀寿美恵 (14年2月~)

臨時事務補助員 2 名

荒井亜矢子 (~13年7月)
荒木 瞳
近藤 圭子 (13年8月~)

第7章 まほろんの施設の概要

施設名 福島県文化財センター白河館
 所在地 〒961-0835
 福島県白河市白坂字一里段86番地
 設置者 福島県
 所管 (管理機関) 財団法人福島県文化振興
 事業団

開館 平成13年7月15日

○建築

設計 株式会社佐藤総合計画
 工事監理 福島県土木部都市局営繕課、
 株式会社佐藤総合計画

施工
 建築工事 佐藤工業株式会社・株式会社
 兼子組特定建設工事共同企業
 体

機械設備工事 山田設備工業株式会社

電気設備工事 福島電設株式会社

○展示

設計監理 日精株式会社
 屋内展示製作 株式会社乃村工藝社
 屋外展示製作 株式会社トリアド工房

1 建築概要

敷地面積 51,827.51㎡
 建築面積 本館・収蔵庫棟 5,999.955㎡
 体験学習館 133.627㎡
 延床面積 本館棟 2,400.046㎡
 収蔵庫棟 2,999.769㎡
 計 5,399.815㎡
 体験学習館 92.71㎡
 構造 本館棟 鉄筋コンクリート造
 収蔵庫棟 鉄骨造
 体験学習館 木造
 規模 地上1階
 最高高さ 10.29m 軒高8.79m
 階高 4m
 駐車台数 一般駐車場91台(身障者用4台)・
 大型車駐車場10台・臨時駐車場40
 台・職員駐車場21台・駐輪場28台
 地域地区 都市計画区域内、無指定

主な外部仕上げ

(本館棟)

屋根 フッ素鋼板瓦棒葺
 陸屋根 アスファルト防水 コンクリー
 ト押さえ
 外壁 コンクリート打放し一部はつり
 仕上フッ素系シラン塗装
 建具 アルミサッシ電解着色
 外構 インターロッキングブロック(環
 境整備工事)

(収蔵庫棟)

屋根 フッ素鋼板瓦棒葺
 外壁 コンクリート打放し一部はつり
 仕上フッ素系シラン塗装
 押出し成形セメント板フッ素系
 シラン塗装
 建具 スチール製建具

(体験学習館)

屋根 フッ素鋼板瓦棒葺
 外壁 粒状陶石
 建具 アルミサッシ電解着色

主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)

床 フローリング
 壁 コンクリート打放しはつり仕上フッ
 素シラン塗装、木練付不燃パネル
 天井 木練付不燃パネル

(常設展示室)

床 タイルカーペット
 壁 ガラスクロスビニルエナメル
 天井 岩綿吸音板、一部溶接金網メラニ
 ン焼付け二重天井化粧石膏ボード

(講堂)

床 フローリング
 壁 腰壁/グラスウール吸音材+集成材
 染色塗装 上壁/岩綿吸音板
 天井 岩綿吸音板

(収蔵庫棟)

床 塗り壁

壁 木織セメント板・セメント成型板
 天井 木織セメント板
 (体験学習館)
 床 合板張り一部畳敷き
 壁 合板オイル拭き
 天井 合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備 受電方式／高圧6.6KV 1回線受電変圧器容量／400KVA 予備電源／非発電50KVA
 非常証明設備・誘導灯設備 建築基準法に基づいて設置
 放送設備 非常放送と兼用 出力240W
 電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備
 電話設備 電子交換外線4回線 (ISDN) 内線55回線
 監視設備 分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停
 制御及び計測監視
 ◎防犯・防災設備
 防犯設備 赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用
 I T V設備 I T Vを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エン

トランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視
 火災報知設備 受信盤P型1級19回線 (自火報) 4回線 (防排煙設備)、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器6箇所
 防災設備 消火／屋内・屋外消火栓、H F Cガス消火方式 排煙／自然排煙
 放火扉設備 5回線
 雷警報設備 襲雷警報器 (コロナム)
 避雷針設備
 ◎空調設備
 空調方式／一般系統：ガスエンジン空冷H Pマルチパッケージ方式 (一部空冷H P) + 静止型全熱交換器
 特別収蔵庫系統：単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式
 常設展示室・特別展示室：単一ダクト (ガスエンジンH P P) 方式
 熱源／都市ガス (ガス種別：プロパン)
 ◎衛生設備
 給排水設備 給水／水道直結方式 給湯／局所式

(単位：㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9				

主要諸室面積表

排水／汚水・雑排水：屋内分
流・屋外合流（最終棟でポンプ
アップ）方式で下水道本管へ放
流

雨水：側溝放流

多目的便所 屋内1箇所（男女別）屋外1
箇所（男女別）トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター2基 一般収蔵庫（油圧式

最大積載量1,000kg)

搬入口（油圧式 最大積載量1,000kg)

工 期 着工 平成11年7月12日

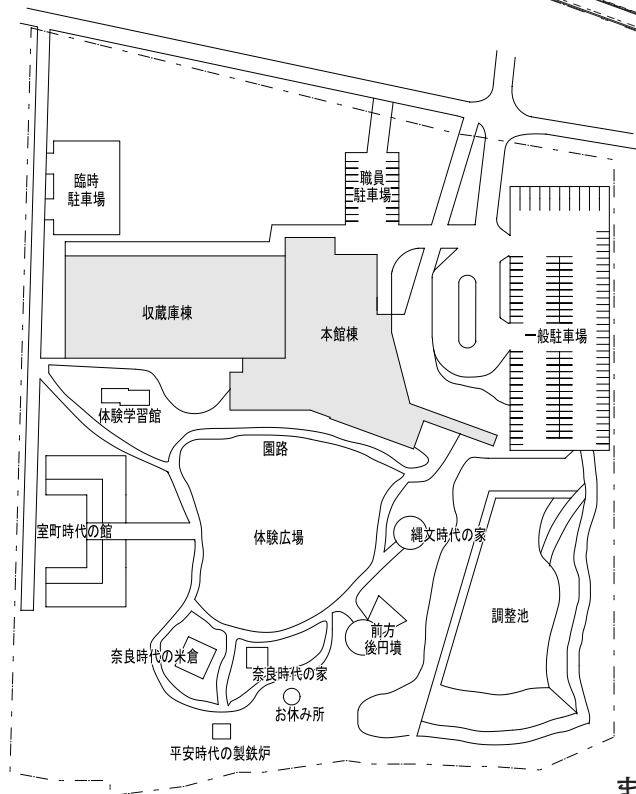
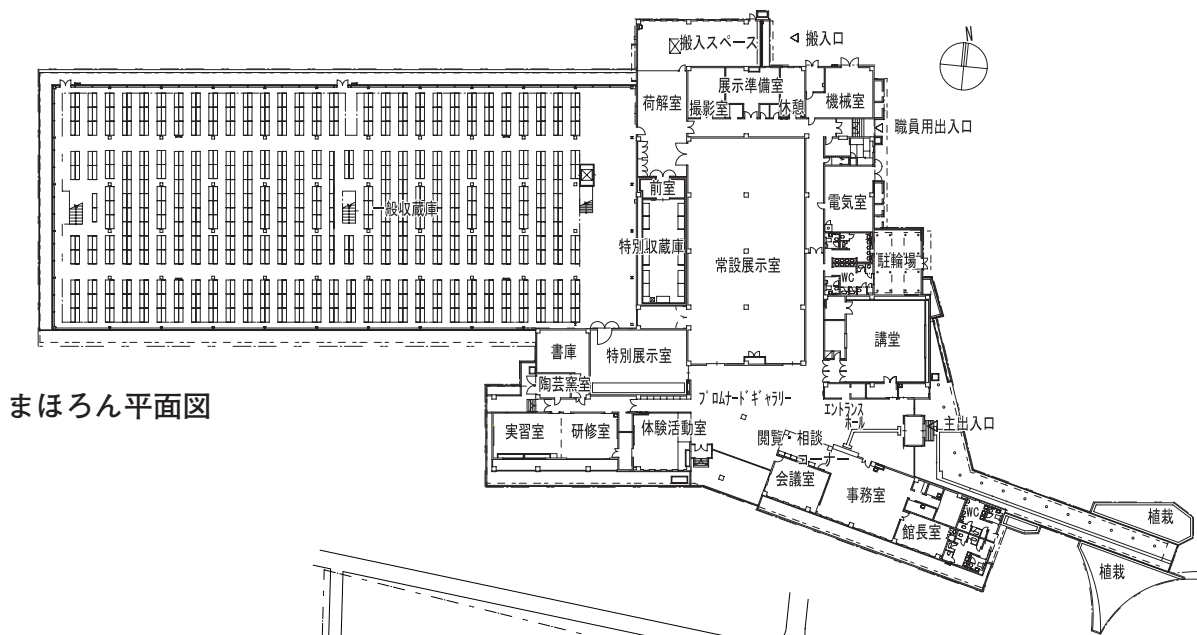
完成 平成12年10月16日

建 築 事 業 費 2,690,848千円

公有財産購入費 222,095千円

その他の経費 387,682千円

合 計 3,300,625千円



まほろんの利用案内

- 開館時間
- 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日
- 毎週月曜日（国民の祝日の場合その翌日）
 - 国民の祝日の翌日（ただし土日にあたる場合は開館）
 - 年末年始（12月28日～1月4日）
- 入館料
- 無料
- 交通案内
- JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（まほろん・市民球場・白坂行き）まほろんバス停下車
 - JRバス（棚倉行き）南湖公園下車25分
 - 東北自動車道白河I.C. から車で20分

- その他
- 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いすも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報2002

平成15年3月31日発行

編集 財団法人福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 白河市白坂字一里段86
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
発行 福島県教育委員会
〒960-8670 福島市杉妻町2-16
印刷 陽光社印刷株式会社

表紙デザイン 久家三夫



「財」福島県文化振興事業団 ● 福島県文化財センター白河館

